

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2025年1月30日）

■第3版 第4刷（2021年2月10日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758120722_corrections.pdfをご参照ください

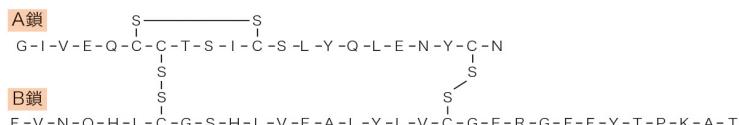
頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
2章					
51	コラム 上から1行目	「日本人の食事摂取基準(2020年版)」	「日本人の食事摂取基準(2025年版)」	情報更新	24/12/27
3章					
77	図B-1			※1を参照	25/01/30
77	右段 本文上から2行目	ホルモンと呼ばれる分子は数多くあるが、物質的には、ホルモンは、大きく①ペプチド系、②アミン系、③ステロイド系の3種類に分類される ^{※2} 。	ホルモンと呼ばれる分子は数多くあるが、化学構造的には、ホルモンは、大きく①ペプチドホルモン、②アミノ酸誘導体ホルモン、③ステロイドホルモンの3種類に大分される ^{※2} 。		25/01/30
78	表B-1			※2を参照	25/01/30
86	概略図-D	ステロイド系ホルモンなど	ステロイドホルモンなど	赤字削除	25/01/30
87	左段 本文上から6行目	ステロイド系ホルモン	ステロイドホルモン	赤字削除	25/01/30
93	左段 本文上から3行目	ステロイド系ホルモン	ステロイドホルモン	赤字削除	25/01/30
95	まとめ 本文上から4行目	ステロイド系ホルモン	ステロイドホルモン	赤字削除	25/01/30
95	まとめ 本文上から8行目	ペプチド系ホルモン	ペプチドホルモン	赤字削除	25/01/30
8章					
184	コラム タイトル	血液サラサラは健康の源	いわゆる血液サラサラは健康の源		24/12/27
190	脚注※3 1行目	「鯖(さば)を食べると蕁麻疹(じんましん)ができる」という人がいる。鯖の身の主成分はタンパク質であり、完全にアミノ酸に分解されて	「パンやパスタなどの小麦からつくられる食品を食べると蕁麻疹(じんましん)ができる」という人がいる。小麦にはグルテンやグリアジンなどのタンパク質が含まれており、これらのタンパク質が、完全にアミノ酸に分解されて		24/12/27
9章					
209	図C-7	サイロキシン	チロキシン		25/01/30
217	表F-1	⑤早期空腹時血糖値110 mg/dL以上	⑤早朝空腹時血糖値110 mg/dL未満		22/10/14
217	表F-1 説明文	「糖尿病ガイド2016-2017」(日本糖尿病学会／編著), p19, 文光堂, 2016より引用。	「糖尿病治療ガイド2022-2023」(日本糖尿病学会／編著), p24, 文光堂, 2022により引用。	出典文献を変更しました	24/12/27
222	脚注※1	「今日の臨床検査2019-2020」(櫻林郁之介/監), 南江堂, 2019より引用。	「今日の臨床検査2023-2024」(矢富裕, 山田俊幸/監), 南江堂, 2023より引用。		24/12/27
222	右段 本文上から2行目	基準値0.3~1.2 mg/dL ^{※1}	基準値0.4~1.5 mg/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
223	右段 本文上から6行目	基準値はAST(GOT)が10~40 U/L ^{※1} , ALT(GPT)が5~40 U/L ^{※1}	基準値はAST(GOT)が13~30 U/L ^{※1} , ALT(GPT)が男性10~42 U/L ^{※1} , 女性7~23 U/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
224	左段 本文上から7行目	基準値115~245 IU/L ^{※1}	基準値124~222 IU/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
224	左段 本文下から13行目	基準値115~359 U/L ^{※1}	基準値106~322 U/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27

224	右段 本文上から7行目	基準値 男性242～495 U/L ^{※1} , 女性200～459 U/L ^{※1}	基準値 男性240～486 U/L ^{※1} , 女性201～421 U/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
224	右段 本文下から14行目	基準値 男性70 U/L 以下 ^{※1} , 女性30 U/L 以下 ^{※1}	基準値 男性13～64 U/L 以下 ^{※1} , 女性9～32 U/L 以下 ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
225	左段 本文下から16行目	基準値4.2～5.1 g/dL ^{※1}	基準値4.1～5.1 g/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
225	右段 本文上から12行目	基準値50～200 U/L ^{※1}	基準値44～132 U/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
225	左段 本文下から8行目	基準値5～55 IU/L ^{※1}	基準値5～55 U/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新 赤字削除	24/12/27
226	右段 本文上から1行目	クレアチニン	Cr(クレアチニン)	赤字追加	24/12/27
226	右段 本文上から2行目	基準値 男性0.65～1.07 mg/dL, 女性0.49～0.79 mg/dL ^{※1}	基準値 男性0.65～1.07 mg/dL ^{※1} , 女性0.46～0.79 mg/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
226	左段 本文下から6行目	基準値90以上	基準値60 mL/60分/1.73 m ² 以上	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
227	左段 本文上から2行目	基準値135～147 mEq/L ^{※1}	基準値138～145 mmol/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
227	左段 本文上から14行目	基準値3.5～5.0 mEq/L ^{※1}	基準値3.6～4.8 mmol/L ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
227	左段 本文下から9行目	基準値 男性3.5～7.0 mg/dL ^{※1} , 女性2.5～7.0 mg/dL ^{※1}	基準値 男性3.7～7.8 mg/dL ^{※1} , 女性2.6～5.5 mg/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
227	右段 本文下から12行目	基準値70～140 mg/dL ^{※1}	基準値65～163 mg/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
227	右段 本文下から6行目	基準値 男性40～70 mg/dL ^{※1} , 女性45～75 mg/dL ^{※1}	基準値 男性39～90 mg/dL ^{※1} , 女性48～103 mg/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
228	左段 本文上から2行目	基準値120～220 mg/dL ^{※1}	基準値142～248 mg/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27
228	左段 本文上から10行目	基準値30～150 mg/dL ^{※1}	基準値 男性40～234 mg/dL ^{※1} , 女性30～117 mg/dL ^{※1}	参考書籍の改訂に合わせ更新	24/12/27

図表

※1 以下の図への差し替えをお願いいたします(赤で囲んだ箇所を修正いたしました)

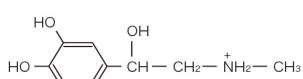
ペプチドホルモン 3～200あるいはそれ以上のアミノ酸が数珠状に連なったペプチドで、標的細胞の細胞膜上の受容体に結合することによって作用を及ぼす。最も種類が多く、下図は計51個のアミノ酸残基からなるインスリンの構造である。



各々のアミノ酸残基は、1文字表記（付録参照）で示してある

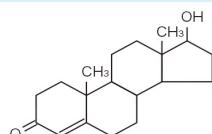
アミノ酸誘導体ホルモン

アミノ酸のチロシン(Tyr)から生じる低分子化合物のホルモンで、副腎髓質の細胞から分泌されるアドレナリンおよびノルアドレナリン、あるいは、甲状腺滤胞上皮細胞から分泌されるチロキシンなど、数は限られている。細胞膜上の受容体に結合するものと、細胞核内の受容体に結合するものとがある。下図はアドレナリンである。



ステロイドホルモン

ステロイド骨格をもつホルモンで、副腎皮質から分泌される数種のホルモンや性腺から分泌されるアンドロゲン、エストロゲンなどがある。これらに、活性型ビタミンD₃を含める場合もある。いずれも脂溶性の性格があるため、血中では、輸送タンパク質（本章D参照）と結合した形で運搬される。多くは標的細胞の細胞質内の受容体と結合した後に核内へ移行して作用を及ぼす。下図はアンドロゲン（男性ホルモン）の一つで、テストステロンである。



図B-1 ● ホルモンの分類と構造

※2 以下の表への差し替えをお願いいたします(赤で囲んだ箇所を修正いたしました)

表B-1 ● 主な内分泌器官とホルモン

内分泌器官名		ホルモンの名称
視床下部		各種の放出ホルモンとこれに拮抗する放出抑制ホルモン 例) 成長ホルモン放出ホルモン, 成長ホルモン放出抑制ホルモンなど
下垂体	前葉	成長ホルモン, 乳腺刺激ホルモン, 副腎皮質刺激ホルモン, 甲状腺刺激ホルモン, 性腺刺激ホルモンなど
	後葉	オキシトシン, パソプレシンなど
松果体		メラトニンなど
副腎	皮質	コルチゾール, アルドステロンなど
	髄質	アドレナリン (エピネフリン), ノルアドレナリン (ノルエピネフリン)など
甲状腺		チロキシン, カルシトニンなど
副甲状腺 (上皮小体)		パラトルモン
膵臓ランゲルハンス島		インスリン, グルカゴン, ソマトスタチンなど
性腺	卵巣(女性)	エストラジオールなど
	精巣(男性)	テスステロンなど

■ : ペプチドホルモン

■ : アミノ酸誘導体ホルモン

■ : ステロイドホルモン

この他にも、胃、腸管や腎臓の一部の細胞群、胎盤などからもホルモンは分泌されている。